行事報告

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業―CIS 活動報告(タイ)

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業運営委員会　委員　菅哲男
接合科学研究所　客員教授

2018 年度のタイ CIS(カップリングインターンシップ)が、8 月 12 日―8 月 25 日の期間にタイ(バンコク)で開催されました。大阪大学の外国語学部 1 名、工学研究科 2 名、基礎工学研究科 1 名、カセサート大の人文科学部 2 名と工学部 2 名の計 8 名の学生が参加しました。接合科学研究所の橋本特任講師と言語文化研究科の村上教授が、全工程を引率しました。

現地では 2 日間(8 月 13 日―14 日)の事前研修をカセサート大で行い、学生主導により、日本企業の理念やコミュニケーションの研修、現地実習企業の紹介、溶接基礎知識の教育(VTR)、CIS 実習テーマの検討などを行いました。15 日から 5 日間(休日を除く)の企業実習に臨みました。実習先の OTC ダイヘン・アジア(OTCDA)社で、会社の説明(組織、業務内容)、安全と品質の講習などを受けると共に、工場見学(溶接トーチの製造)、工場実習(自動旋盤、射出成形、ロボット操作、溶接)や OTCDA の幹部やスタッフとのインタビューを行いました。8 月 20 日には、ラヨーンで OTCDA の FA センターや客先(Thai Summit PK、自動車部品メーカー)の見学もしました。また、実習テーマの「コミュニケーションの課題と対策」について、学生は連日協議を重ねて、真剣に取り組みました。

最終日の 8 月 24 日に、カセサート大で学生はテーマの検討結果について発表しました(写真)。最終報告会には、OTCDA の川原社長、辻井副社長、カセサート大の Peerayuth 工学部長、Nontawat 工学部長アドバイザー、大阪大学の村上教授、橋本特任講師、大橋助教(生物工学国際交流センター)、菅客員教授ら計 27 名の参加がありました。学生の提案に関して活発な議論が行われましたが、企業や大学から「コミュニケーション」に関する貴重なアドバイスが多く出されました。

学生は、「ものづくり現場」を体験すると共に、実習テーマを通して、コミュニケーションや異文化理解の重要性を体得しており、大変有意義な活動でした。